

会 議 録

(敬称略：発言は要約です)

会 議	平成25年度第2回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会
日 時	平成25年10月3日(木) 19時から20時45分まで
場 所	美濃加茂市生涯学習センター201集会室
出席者	<p>出席委員22名</p> <p>佐合茂樹(美濃加茂市)、野村宗弘(美濃加茂市)、金武政博(坂祝町)、 加藤 賢(川辺町)、市原正隆(富加町)、塚本吉弘(七宗町)、 柘植伴美(八百津町)、長島佳久(白川町)、今井政信(東白川村)、 大矢正昭(美濃加茂市)、田中 強(美濃加茂市)、長谷川嘉彦(七宗町)、 古田文英(白川町)、安江美好(東白川村)、高井俊樹(美濃加茂市)、 太田悟実(坂祝町)、佐伯敏充(川辺町)、渡邊謙太郎(富加町)、 吉村 研(七宗町)、牧尾 梢(八百津町)、藤井宏之(白川町)、 杉田正和(東白川村)</p> <p>欠席：安藤道弘(美濃加茂市)、小西輝幸(坂祝町)、加藤孝明(川辺町) 山田 智(美濃加茂市)、小島一彦(富加町)、佐合重光(八百津町)</p> <p>美濃加茂市(みのかも定住自立圏推進対策本部)</p> <p>市長 藤井浩人 市民協働部長 伊藤誠一 市民協働部次長兼定住自立圏推進室長 渡辺久登 産業建設部次長 渡辺文喜 市民協働部文化振興課長 小田島史佳 経営企画部秘書課長 渡辺久司 健康福祉部健康課長 朝日伸久 産業建設部都市計画課長 池田正幸 市民協働部定住自立圏推進室 安田智洋、井戸 伸、川上明里</p> <p>加茂郡</p> <p>坂祝町総務課 課長 三品智裕、林 伸孝 富加町総務課企画グループ課 課長 川崎敏博、高井絢也 川辺町企画まちづくり課 課長 桜井繁治、馬場啓司 七宗町企画財政課 課長 加藤 正、塚本 誠 八百津町総務課 後藤 等 白川町経営管理課 藤井寿弘 東白川村総務課 伊藤保夫</p> <p style="text-align: right;">傍聴人含む参加者合計80名</p>

議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・みのかも定住自立圏事業進捗状況の報告 ・(仮称) 第2次みのかも定住自立圏構想の方向性について ・意見交換 ～市町村ごとによる協議・報告～
-----	--

渡辺室長	開会宣言。
市長	<p>あいさつ。中蜂屋工業団地にミツカンが参入します。ソニー閉鎖によって経済も低迷していましたが、これを機にこの地域が元気になればと思います。同時に今回の定住自立圏では、人口減少が厳しい今の時代ですが、皆さんと力を合わせて加茂地域から全国に発信できるような取り組みを行っていきたいと考えています。どうかよろしくお願いします。</p>
大矢会長	<p>あいさつ。定住自立圏も第二のステージに入ります。したがって、本日は各市町村や圏域全体の活性化につながるように、ご提案願います。</p>
渡辺室長	<p>これより議事に入ります。進行を大矢会長にお願いします。</p>
大矢会長	<p>これより進行させていただきます。それでは次第に入ります。はじめに「みのかも定住自立圏事業進捗状況の報告」について定住自立圏推進室から説明してください。</p>
推進室	<p>定住自立圏ホームページ(プロジェクターで紹介)から、現在のビジョン掲載事業と進捗状況、つながる事業の活動状況を紹介。このようなホームページや情報誌「かも丸りびんぐ」等を使って、これからもみのかも定住自立圏の最新情報を発信していきます。ご意見やご提案等は、各市町村の定住自立圏担当課までご連絡ください。</p>
大矢会長	<p>ここまででご意見等がありますか？</p>
委員	<p>質疑なし</p>
大矢会長	<p>続きまして「第2次みのかも定住自立圏構想の方向性について」定住自立圏推進室室長より説明します。</p>
渡辺室長	<p>資料に基づいて説明。来年度で第1次ビジョンが終了します。次期も皆様にご協力いただき、新しいビジョンを作っていきたい。</p>

初めは小さかった圏域の大きさも、現在では8市町村と大きくなって、地域特性が共有しにくくなり、市町村内で意識の濃淡が感じられます。今までは中心市が主体となって事業を進めてきましたが、第2次ビジョンでは中心市が主導して事業を進めるだけでなく、美濃加茂市と7町村が1対1の関係の協定関係を尊重し、それぞれの地域課題を解決して魅力ある特色を生かせるような事業を提案していただきたいです。

これは確かに理想論かもしれませんが、ぜひその理想に向かってビジョンを作っていきたいと思います。

伊藤部長

資料に基づき、都市圏とのつながり・新しい公共について説明。

第2次みのかも定住自立圏共生ビジョンの策定基本方針では、「都市圏（名古屋）とのつながり」と「新しい公共」を掲げています。

これは、ビジョンを実りあるものとするため、基本方針をもとに事業を選択、集中して投資し、各地域の課題を中心市と連携して解決していきます。そして中心市と圏域町村とは1対7の関係ではなく、1対1の関係でそれぞれの事業に取り組んでいきます。

「都市圏のつながり」では、名古屋圏にとって必要不可欠な存在をめざし、都市部に無いものを定住自立圏の民間団体や事業者が中心になって展開していくものです。「新しい公共」では、事業の実施主体を行政から民間へ移していくことにより、新たなサービスが生み出され、各市町村の個性も尊重されると考えています。

では、そういった基本方針をどのように進めるか、資料を基に説明します。

まず、第2次ビジョンでは、市町村ごとに「定住委員会」のような組織を作り、各地域課題について議論して事業を立案、ビジョン懇談会へ共生ビジョンに掲載する事業として提案していただきます。

この事業というのは、各町村・および中心市である美濃加茂市それぞれに事業の条件があり、資料で示したように名古屋圏との流れを作ることや新しい公共を実現する事業であることのほかに、町村は「美濃加茂市」と協働して行う事業であること、美濃加茂市は「圏域」の発展につながる事業であることが条件として挙げられます。

そしてビジョン懇談会に提案された事業について、懇談会にて市長と協議・懇談した後、第2次共生ビジョンに掲載する事業を決定します。

その後の事業展開では、市町村から提案された事業がビジョンに位置付けられた場合、提案した市町村の実行チームが中心となって、事業を実行していきたいと考えています。計画提案や進捗状況、効果の報告をビジョン懇談会に行い、中心市は事業を支援していくという形になります。

<p>推進室</p>	<p>この件について、総務省と意見交換を行いました。その説明を推進室よりお願いいたします。</p> <p>ここまでで説明した事業の考え方について、総務省と実際に協議を行い、意見をいただきました。</p> <p>資料に基づいて説明。</p> <p>総務省では、定住自立圏の今後について有識者による研究を進めており、その研究会資料においても、中心市だけでなく周辺町村から中心市に働きかけることの必要性と、各市町村への役割分担と連携の重要性、そして官と民が連携して地域の発展を目指す必要性が述べられています。</p> <p>そして実際に総務省へ協議した結果、ビジョンには事業を絞って掲載して、財源を集中させるという構想は、その事業の課題や効果が見えやすくなり、事業者や市民にも理解しやすく望ましいとの意見をいただきました。また、協定項目について順次取り組む方法、各町村からの事業提案を積み上げて議論する事は圏域内で地域の議論がさらに深まるということにつながってよいのではとの意見でした。</p> <p>続いて今後の予定ですが、来年度までは現在のビジョンに掲載する33事業を進めます。そのうえで、平成27年度から新たな事業を新しいビジョンで実施できるようにするため、平成26年10月を目標として新たなビジョンに掲載する事業をまとめたいと考えています。</p>
<p>大矢会長</p>	<p>それでは意見交換へと移りたいと思います。定住自立推進室より説明します。</p>
<p>推進室</p>	<p>これまで説明したことを含め、不明点・疑問点・意見等お持ちだと思います。現在、席が市町村ごとに分かれていますので、そうした意見や地域の課題などをそれぞれ話し合っただき、意見を発表願います。</p> <p>(議論後)</p> <p>それでは市町村ごとにご意見をご紹介ください。</p>
<p>杉田委員</p>	<p>東白川村が定住自立圏に参加したことから振り返ってみました。今までは美濃加茂市を中心にして事業を進め、各町村が美濃加茂市に助けをもらう事業展開…いわば守りの事業が多かったと思います。しかし、第2次ビジョンへ移行するにあたり、名古屋圏という外へ向かっていく攻めの事業展開となることから、東白川村としては「自然」「特産品」を全面的に打ち出していきたい。以前、三重県</p>

<p>藤井委員</p>	<p>の漁業組合と「海を守るために山を守る」という主旨で、5年間共同事業を展開しましたが、その際には地域住民や学校同士の交流もあり、非常に有意義な事業でした。今回はぜひ「里山」「自然」を活かした組織を作って、事業を展開したいという前向きな意見が出ました。</p> <p>冒頭に市長がミツカン工場の進出について話されましたが、その件は我々の白川町としてもとてもうれしいニュースでした。白川町としても自立できるようにもう少し定住自立圏の視点から課題を見直したい。白川町は自然豊かで安心安全な強みがある反面、人口減少が激しいという課題があり、少しでもこの現象を止めるために、地域の活性化を進めたいと思います。また、隣接地域をリニア新幹線が通るので、そのチャンスもぜひ生かし、美濃加茂市に近いという地理も利用して、この弱みを強みにしたい。</p>
<p>牧尾委員</p>	<p>八百津町も人口が減っています。そのため、町内外のみんなの目を八百津町へ向けていくことが大切だと思います。八百津には、様々な特産品や豊かな自然があるので、そういったものを利用して外部から人を招き、八百津に住みたいと思えるようなまちづくりをしていかなければいけないと考えます。少しでも住民を増やしていきたいと思います。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>つながる事業として七宗町の「ぼちぼちや」が紹介されましたが、こういった事業実施団体や定住自立圏そのものの知名度がまだまだ足りないと思います。</p> <p>第2次のビジョンにおいて、我々七宗町も町の特性を生かすことにより、名古屋圏を意識した事業が展開できるのではないかと考えています。七宗も人口が減少しており、町の力が弱くなっています。定住自立圏共生ビジョンを活かしながら、地域の活性化を進めたい。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>富加町の意見として1つ目に挙げるのは、資料にもあった「定住委員会」を作るという必要性を実際に感じています。実際には「定住自立圏」を知らない住民も多く、住民に浸透できるような委員会づくりは必要です。</p> <p>2つ目の意見は、「新しい公共を実現する事業」というものが漠然としておりわかりにくいとの意見が出ました。具体的な事例があったほうがわかりやすいです。</p> <p>そして美濃加茂市と協働して行う事業について、その理想は共感するものがあり、ぜひ、協力したいです。ですが、少しビジョン掲載へのハードルが高いように思います。</p> <p>定住自立圏を形成する圏域の町村として、我々がやらなければいけない事は、</p>

<p>佐伯委員</p>	<p>特色があり自慢できる事業をビジョンに掲げる事であり、それがきちんとできることによって名古屋圏へつながるのではないのでしょうか。もう一度原点へ戻り、町の中での組織作りの必要性を感じました。</p> <p> 今回のビジョンは、「町村から中心市へ積極的に働きかける」ことができるという事について、大きな意味を感じます。川辺町が名古屋へ…世界へ発信できる扉を開いていただいたものと喜んでいますが、美濃加茂市へは中心市として、サポートをぜひお願いいたします。</p> <p> 一方で、川辺町はボートが有名ですが、「ボート大国」という言葉のイメージがいったいどのようなものを表すのか分からないということ、商店街が疲弊していることなど、地域課題も多くあります。この町はとても多くの財産を持っているので、それを活かし、事業として提案していきたいと思っております。</p>
<p>太田委員</p>	<p> 第2次ビジョンの考え方は理解できます。第2次ビジョン掲載への基本方針は、新しい区分を加えるということと認識しています。坂祝町としても、やるならきちんとしたものを提案して採択されたいと思っております。しかし現実的には、町民・企業にこうした事業を提案させる仕組みや啓発の方法を、町がどのような形で役割として担っていくのか…そこが第2次ビジョンの成功を左右する重大な要素だと思っております。</p>
<p>大矢会長</p>	<p> 美濃加茂市は中心市であり、医療福祉・教育交流・食文化と、産業振興の3つの枠組みで取り組んできました。本日のわずかな時間でこれらすべてを話し合うのは難しく思いました。</p> <p> 美濃加茂市は中山間地にあり、資源（農林水産資源）を有効に活用することが、医療福祉や教育文化交流の郷土色、特色に関連していくのではないかと。そのような資源を産業に結びつけていければ良いのでは、という意見が出ました。</p>
<p>推進室</p>	<p> ありがとうございました。</p>
<p>大矢会長</p>	<p> 皆様、貴重な意見をありがとうございました。これからも各市町村でも積極的な懇談をしていただきたいと思います。それでは最後に市長からまとめをお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p> 短い意見交換の時間でしたが、ご意見をいただき、ありがとうございます。新しい定住自立圏構想の形を示したなかで、委員の皆様にも理解していただけたようで嬉しく思います。</p>

この地域で生まれ育った人がこの地にとどまりやすい政策、さらに名古屋圏へ流出した人口をいかに引き込むかが、この地域の人口を増やす鍵だと思います。

本日は、「それぞれの地域が積極的に動き出し、強みを出し合って、これからの厳しい時代を乗り越えていく」ための記念すべき日になったと思います。ぜひ今日だけにとどまらず、地域の理解を得て事業提案をどんどん出していてもらいたいと思います。

これからが勝負となるでしょう。今後ともよろしく申し上げます。

渡辺室長

この半年間が重要な時期となります。それぞれの地域で、定住自立圏について考えていただく場を設けていただきたいと思います。

なお、定住自立圏についての意見や提案などを、各市町村の定住自立圏担当課までお寄せください。

(終了)